

家島校区学校地域協議会 協議結果報告書



令和5年12月

家島校区学校地域協議会

目次

1	趣旨	1
2	家島校区の児童生徒数の推移	1
3	検討した取組方策	2
(1)	通学区域（校区）の見直し	2
(2)	隣接校との統合	2
(3)	小規模特認校制度	3
(4)	義務教育学校	4
4	協議会としての考え方	6
(1)	協議会としての案・方向性	6
(2)	住民説明会及びアンケート調査	6
(3)	小学校、中学校の施設確認	7
(4)	結論	7

参考資料

(1)	家島校区学校地域協議会委員名簿	8
(2)	家島校区学校地域協議会の開催状況	9
(3)	家島校区学校地域協議会に関する住民説明会でのアンケート調査結果	11
(4)	家島小学校及び家島中学校に関するアンケート調査結果	17

1 趣旨

近年、少子化が進行する中、姫路市全体において児童生徒数の減少傾向が続いており、家島校区においても同じく児童生徒数は減少してきている。

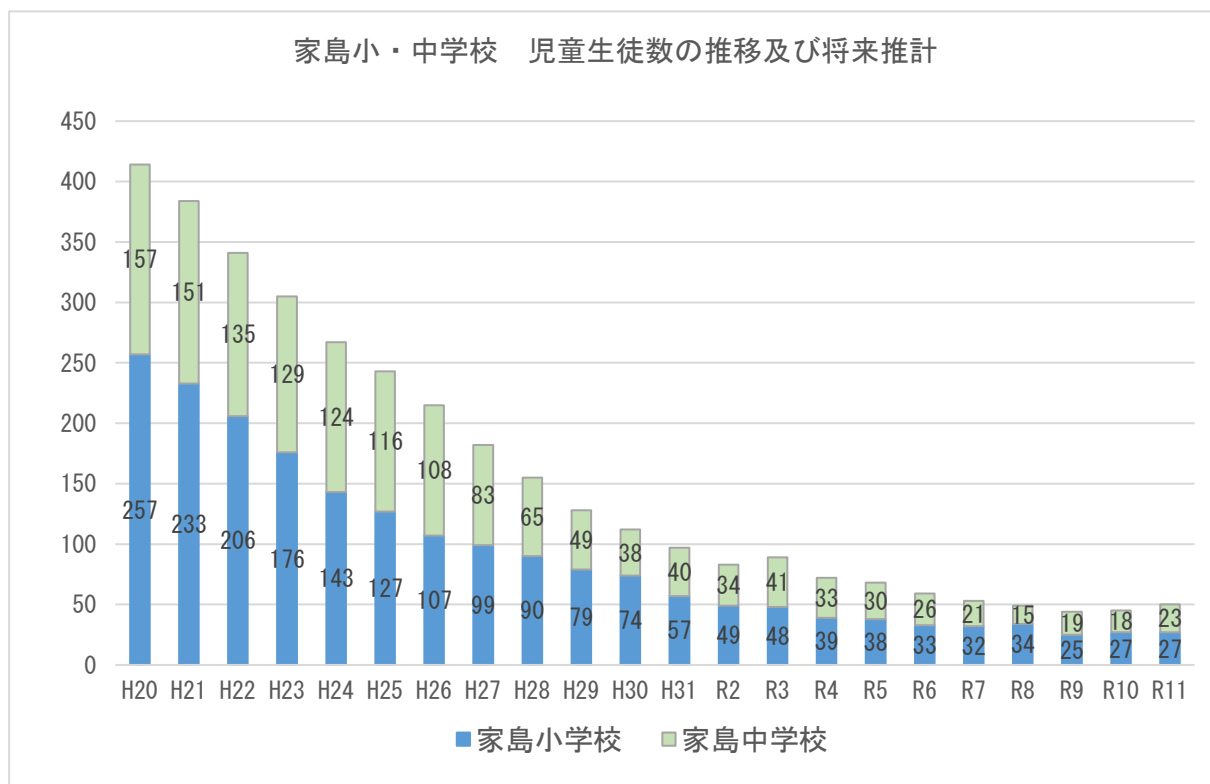
そのような中、姫路市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（令和2年2月策定。）に基づき、令和4年8月に、保護者や地域住民、学校等で組織する家島校区学校地域協議会を設置し、学校の規模により生じる可能性がある教育上の課題を共有しながら、その課題解決に向けた取組方策について検討してきた。

本報告書は、協議会での協議結果を取りまとめ、姫路市教育委員会に報告するものである。

2 家島校区の児童生徒数の推移

家島小学校及び家島中学校の児童生徒数は、15年前の平成20年度には小学校で257名、中学校で157名の合計414名であったが、令和5年度には小学校で38名、中学校で30名の合計68名となっている。

家島小学校では教職員配置の工夫により、複式学級の編制を回避していたが、令和4年度には一部の学年で初の複式学級が設置された。令和11年度には小学校で27名、中学校で23名の合計50名となる見込みであり、児童生徒数の減少は今後も続くことが予想される。



※各年5月1日現在。R6年以降は住民基本台帳登録人口に基づく

3 検討した取組方策

小規模な学校においては、学習面で丁寧な指導ができることや、運動会や発表会などで出番が多く活躍できるなどの良いところもあるが、対人関係が少なく多様な考えや価値観に触れる機会が少ないことや、体育の団体競技や音楽会において人数的な制約により活動内容に限られるなどの課題も生じることとなる。

そこで、児童生徒にとってより良い教育環境にしていくためにどうすれば良いかを考えるべく、以下の4つの取組方策について検討した。

(1) 通学区域（校区）の見直し

ア 概要

小規模校や大規模校において、又は、就学指定校への通学距離が直近の学校までの距離に比べて著しく遠い場合等において、通学区域の見直しを行う。

イ 協議会の見解

家島校区においては、島という特性上、通学区域の見直しは事実上難しいため、検討の対象外とした。

(2) 隣接校との統合

ア 概要

隣接小学校、中学校と統合し、学校規模を拡大する。

表1 隣接小学校の児童数及び学級数（令和5年5月1日時点）

小学校名	区分	通常学級							特別支援学級	合計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
家島小	児童数	6	5	11	1	6	8	37	1	38
	学級数	1	1	1*		1	1	5	1	6
飾磨小	児童数	98	130	119	142	172	114	775	21	796
	学級数	3	4	4	5	5	3	24	4	28
坊勢小	児童数	11	14	18	8	10	26	87	2	89
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	2	8

*3、4年生の複式学級。小学校において、2つの学年の児童数の合計が14人以下（第1学年を含む場合は8人以下）の場合、複式学級が編制される。

表2 隣接中学校の生徒数及び学級数（令和5年5月1日時点）

中学校名	区分	通常学級				特別支援学級	合計
		1年	2年	3年	計		
家島中	生徒数	7	9	12	28	2	30
	学級数	1	1	1	3	1	4
飾磨中部中	生徒数	88	91	91	270	2	272
	学級数	3	3	3	9	1	10
坊勢中	生徒数	16	13	19	48	2	50
	学級数	1	1	1	3	2	5

イ 協議会での意見

メリット
<ul style="list-style-type: none">・友達が増える。・音楽の合奏や合唱、体育の球技など、集団で行う教育活動が充実する。・PTA等の役職に当たる回数が少なくなる。
デメリット
<ul style="list-style-type: none">・船で通学するため、通学時間が縛られる。・自宅から網手港までが遠く、また、坊勢小学校は山の上にあり、坊勢港からの距離も遠い。・船での登校は天気によって左右され、危険を伴うことがあるため心配。・子どもが体調を崩して迎えが必要な時、すぐに迎えに行くことができない。・船が欠航した場合、家島の子どもたちの学習の進捗が遅くなる。・コミュニティの中心である学校がなくなることで、町の活気がなくなる。

(3) 小規模特認校制度

ア 概要

地域や小規模校の特長を生かした教育活動を進め、複式学級の解消、学校の活性化を図ることを目的として、校区外（市内全域）からの通学を認める制度。（詳細は下記のとおり）

1 対象校及び目標

1～5学級の小学校を対象とし、魅力ある教育活動により、全学年で1学級以上を目指す。

2 制度の導入及び運用

学校地域協議会において、少人数ならではのきめ細かな指導や、地域の特性を生かした活動といった特色ある教育活動について協議しながら、学校を活性化させる取組方策を検討する。その結果を「小規模特認校実施計画書」として取りまとめ、教育委員会に提出する。

小規模特認校として認定されている間も学校地域協議会は継続的に開催し、認定による教育環境改善の状況について検証しながら、望ましい学校規模に向けた具体的な取組方策や課題解消策について協議を行う。

なお、制度導入後、原則として5年間で全学年1学級以上とならない場合は、統合等の取組方策を進める。

3 就学の条件

就学を希望する保護者及び児童は、次の条件をすべて満たす必要がある。

- (1) 保護者および児童が共に市内に居住していること

- (2) 小規模特認校での学習や活動ができる心身の状況にある児童であること
- (3) 保護者が、小規模特認校の教育活動を理解し、PTA活動や地域との交流活動に最大限協力できること
- (4) 保護者の負担と責任により、児童を安全に通学させること
- (5) 原則として、卒業までの間、通学する意思があること（1学期だけの通学など、短期間の通学は想定していない）

4 その他

- 兵庫県では、中学校の複式学級の編制基準（※）を設定していないため、公立中学校に複式学級はない。

※複式学級の編制基準…小学校の場合、2つの学年の児童数の合計が14人以下
(第1学年を含む場合は8人以下)

- 小規模特認校に通い卒業した児童が、その校区の中学校に行くか居住校区の中学校に行くかは選択できる。
- 本市では、勘野小、安富北小が令和5年4月から小規模特認校制度を導入している。

イ 協議会での意見

メリット
<ul style="list-style-type: none"> ・児童数の増加が期待できる。 ・島外の児童や保護者に家島のことを知ってもらえる。 ・豊かな自然環境を生かした教育活動ができる。
デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・制度を導入しても成果が出ない可能性が高い（船の定期代を負担しなければならない、子どもを学校まで車で送迎できない、低学年の子どもを1人で船に乗せることが不安）。 ・制度導入後5年間で複式学級が解消できなければ、統合となる。その場合、島外に出ていく家族が増える可能性がある。 ・離島の家島に船で通う大変さを考えると、心情的に来てほしいとアピールしにくい。

(4) 義務教育学校

ア 概要

小中一貫教育の1つ。小中学校を統合することにより、1人の校長の下で1つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態。

本市では、施設一体型（豊富小中学校）、施設隣接型（白鷺小中学校）、施設分離型（四郷学院）がある。

イ 協議会での意見

メリット	
小中学校を1つの校舎にする場合	小中学校を別校舎にする場合
<ul style="list-style-type: none"> ・学校に活気が出る。 ・中1ギャップの解消が期待できる。 ・教員間で児童生徒の情報共有がしやすくなる。 ・小学生が中学校の生活をイメージしやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに施設の整備費用が発生しない。
<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見通した教育課程や柔軟な指導体制のもと学習に取り組むことができる。 ・小学生も中学校教員による指導を受けることが可能になる。 ・小規模特認校とは違い、義務教育学校へ移行後、5年間で複式学級が解消できないことを理由に統合となるわけではない。 	
デメリット	
小中学校を1つの校舎にする場合	小中学校を別校舎にする場合
<ul style="list-style-type: none"> ・教室数やグラウンドの確保など、施設や費用面で課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の交流が行われにくく、教育的なメリットは小さくなる可能性がある。 ・校長の負担が大きくなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・小規模特認校とは違い、他校区から児童が来るわけではないため、複式学級の解消にはつながらない。 	

ウ 設置場所にかかる意見

仮に1か所で義務教育学校を運営する場合、小学校または中学校のどちらを校地とする方が良いかについて、それぞれのメリット・デメリットを協議し、意見を整理した。

メリット	
家島小学校に設置する場合	家島中学校に設置する場合
<ul style="list-style-type: none"> ・校舎が新しく、きれい。 ・平地に位置し、立地が良い。 ・給食センターが隣に位置している。 ・エレベーターがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館が新しい。 ・グラウンドが広い。 ・高潮の影響を受けにくい。
<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの校地でも、普通教室として使用するための空き教室は確保可能。 	
デメリット	
家島小学校に設置する場合	家島中学校に設置する場合
<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドが狭く、部活が行いにくい。 ・部活を中学校のグラウンドで行う場合、教師の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山を2つ越える必要がある小学生がおり、通学の負担が大きい。

4 協議会としての考え方

(1) 協議会としての案・方向性

協議会では、これまでの検討結果を踏まえ、小中学校を1つにした義務教育学校にすることが良いという意見にまとまった。その際の意見は以下のとおりである。

- ・統合はあり得ない。
- ・船に30分乗って来てもらう小規模特認校は夢の話。
- ・沼島小中学校の視察を経て、小規模特認校はなかなか難しいことを実感した。
- ・義務教育学校は学校が無くなるわけではない。
- ・どれか1つを選ぶのであれば義務教育学校になる。
- ・一旦、義務教育学校に取り組み今の子どもたちの状況を少しでもよくしてあげたい。
- ・今後、さらに少ない人数になり、とても危機感をもっているので、何かしないといけないという思いの中で、義務教育学校の方向性が良い。
- ・義務教育学校であれば集団が成り立ち、ある程度的人数が揃い、縦のつながりができて刺激もあるので良い。
- ・まずは義務教育学校にしてより活気を出すべき。

(2) 住民説明会及びアンケート調査

協議会としての意見を周知するとともに、地域住民や保護者の意見を聞くため、住民説明会及びアンケート調査を実施した。

ア 住民説明会について

開催日時及び参加人数は下記のとおり。

1回目：令和5年5月25日（木）10時～ 26名

2回目：令和5年5月26日（金）17時～ 17名

※ 両日とも家島小学校2階多目的室で開催。

イ アンケート調査について

(ア) 住民説明会でのアンケート

住民説明会参加者を対象にアンケートを実施。回答者数45名。

取組方策に関する質問での回答は「義務教育学校」が最も多く、全体の73.2%。

また、義務教育学校の設置場所としては「小学校」が最も多く、全体の52.6%。

（アンケート結果の詳細はP11～P16に記載。）

(イ) 保護者アンケート

住民説明会で保護者の参加が少なかったことから改めて実施。

実施期間は令和5年7月10日（月）から令和5年7月20日（木）まで。

回答者数50名。

取組方策に関する質問での回答は「義務教育学校」が最も多く、全体の80.0%。

また、義務教育学校の設置場所としては「小学校」が最も多く、全体の68.0%。

（アンケート結果の詳細はP17～P24に記載。）

(3) 小学校、中学校の施設確認

1か所で小中学校を運営する義務教育学校を設置する場合の校地を検討するために、小学校の教員による中学校の施設確認を、中学校の教員による小学校の施設確認を依頼し、意見を求めた。

ア 小学校について

- ・黒板、ホワイトボードの位置が低い。
- ・特別教室の机が低い。
- ・中学校の授業では教材も多くなるが、今のままでは収納スペースが足りない。
- ・体育館へ移動する動線に屋根をつけてほしい。
- ・グラウンドの防球ネットを高くしてほしい。
- ・グラウンドが狭い。
- ・図書室に中学校の蔵書が入りきるか分からない。

イ 中学校について

- ・廊下に段差がある。
- ・手洗いの鏡や蛇口が高く、蛇口の数が少ない。
- ・教室の窓の位置が低く、落下防止の棒が1本あるが外側であり、落下の危険がある。
- ・図書室が狭く、図書の閲覧や調べ学習をするスペースがない。
- ・配膳室が狭く9クラス分の給食を置くことが難しい。
- ・エレベーターがない。

(4) 結論

協議会における各取組方策についての検討結果、住民説明会参加者へのアンケート及び保護者アンケートの結果並びに小・中学校の教員による施設確認結果を踏まえ、本協議会としては、小学校の施設を活用し、1か所で小中学校を運営する義務教育学校を設置することを希望する。

義務教育学校にすることで、より大きな児童生徒の集団となり、学校に活気が出るとともに、9年間を通じた学校生活の中で縦のつながりを築き、団結力や結束力を強め、仲間意識を大事にする子どもに成長する教育を期待する。

また、これまで以上に、豊かな自然環境を生かした環境学習に取り組むとともに、ICTを活用したリモート授業や島外の社会科見学の学習、他校の児童生徒との学習交流などの教育活動にも取り組み、さらなる学習内容の充実を図ってほしい。地域としても、魅力と活力ある学校であり続けるよう、一体となり協力していく。

なお、今後、小学校の施設を活用して義務教育学校を設置することとなれば、児童生徒が安心して学習できるよう、教育環境を整えるために必要な施設改修を希望する。

参考資料

(1) 家島校区学校地域協議会委員名簿

(敬称略)

所 属 ・ 職 名	名 前
宮区会 区長	○ 福田 弁一郎
宮区会 総務委員長	中川 幸一
真浦区会 区長	◎ 畑野 長利
真浦区会 総務委員長	安積 敏和 (令和4年度) 浅井 宏真 (令和5年度)
令和4年度 家島中学校PTA 会長	田井 秩佐
令和4年度 家島中学校PTA 副会長	小島 睦
令和4年度 家島小学校PTA 会長	畑野 まゆみ
令和4年度 家島小学校PTA 副会長	関谷 千恵
令和4年度 家島幼稚園PTA 会長	中西 和也
令和4年度 真浦幼稚園PTA 会長	柴田 由美
住みよい家島を守る会	興地 逸郎
	関谷 福蔵
家島中学校 校長	坂本 泰三 (令和4年度) 美安 周平 (令和5年度)
家島小学校 校長	小林 生也

◎ : 会長 ○ : 副会長

(2) 家島校区学校地域協議会の開催状況

回	開催日	内 容
1	R4. 8. 30 (火)	家島校区の現状と見通しについて ➤ 学校地域協議会についての概要、家島校区の児童生徒数及び学級数の現状と見通しについて確認した。
2	R4. 10. 5 (水)	取組方策について ➤ 通学区域（校区）の見直し、隣接校との統合、小規模特認校制度、義務教育学校の各取組方策について確認した後、隣接校区の小中学校と統合した場合のメリット・デメリットについて協議した。
3	R4. 11. 7 (月)	(1) 統合のメリット・デメリットの整理について (2) 小規模特認校のメリット・デメリットについて ➤ 統合のメリット・デメリットについて出された意見を確認した後、小規模特認校のメリット・デメリットについて協議した。
4	R4. 12. 19 (月)	(1) 小規模特認校のメリット・デメリットの整理について (2) 義務教育学校のメリット・デメリットについて ➤ 小規模特認校のメリット・デメリットについて出された意見を確認した後、義務教育学校のメリット・デメリットについて協議した。
見学	R5. 1. 23 (月)	沼島小中学校視察（南あわじ市） ➤ 学校地域協議会委員2名と事務局2名で、小中一貫教育と小規模特認校制度を導入している沼島小中学校を視察した。
5	R5. 1. 31 (火)	(1) 沼島小中学校視察の報告について (2) 義務教育学校のメリット・デメリットの整理について (3) 取組方策の決定について ➤ 沼島小中学校視察結果について委員より報告。 ➤ 義務教育学校のメリット・デメリットについて出された意見を確認した後、これまでの取組方策も含めて協議し、協議会として小中学校を1つにした義務教育学校にすることが良いという意見にまとまる。
6	R5. 2. 20 (月)	(1) 義務教育学校を設置する校地について (2) 協議内容の周知について (3) 来年度の学校地域協議会委員について ➤ 義務教育学校を設置する校地について、小学校と中学校のメリット・デメリットを協議した。 ➤ 協議内容を周知するため、説明会を開催したうえで参加者にアンケートを実施することとした。
7	R5. 3. 27 (月)	(1) 義務教育学校を設置する校地のメリット・デメリットの整理について (2) 説明会資料（案）及びアンケート（案）について (3) 来年度の学校地域協議会委員について

		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 義務教育学校を小学校または中学校に設置する場合のメリット・デメリットについて出された意見を確認した。 ➤ 説明会で配布する資料とアンケートの内容、開催日時、場所、実施方法について確認した。 ➤ 協議会委員に、委員を次年度も継続できるか否かを確認した。
説明会	R5. 5. 25 (木)	家島校区学校地域協議会に関する住民説明会
	R5. 5. 26 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学校地域協議会における協議内容について説明。 ➤ 説明会会場にてアンケートを実施（結果はP11～P16 参照）。
8	R5. 6. 30 (金)	(1) 説明会をふりかえって (2) 今後の方向性について
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 説明会の質疑応答の際の主な意見について確認。 ➤ アンケート結果を確認したが、回答者数が少なかったことから、再度、保護者全員を対象としたアンケートを実施することとした。
保護者アンケート	R5. 7. 10 (月) ～	家島小学校及び家島中学校に関するアンケート調査
	R5. 7. 20 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 家島中学校、家島小学校、家島幼稚園、真浦幼稚園の全保護者に対し、アンケート用紙を配付。わくわく広場いえしまにもアンケート用紙を配架し、未就学児の保護者についても対象とした。（結果はP17～P24を参照）
施設確認	R5. 7. 28 (金)	小、中学校の教員による施設確認
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 義務教育学校を設置する場合の校地を決めるため、小学校の教員により中学校の施設を、中学校の教員により小学校の施設を見学し、必要な施設改修について確認。
9	R5. 8. 21 (月)	(1) 家島小学校及び家島中学校の施設確認結果について (2) 保護者アンケート結果について
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 小、中学校の教員による施設確認の結果について、校長先生より報告。 ➤ これまでの協議、施設確認結果、保護者アンケート結果を踏まえ、協議会として、小学校の施設を活用し義務教育学校を設置するという意見にまとまった。
10	R5. 10. 6 (金)	家島校区学校地域協議会協議結果報告書（案）について
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 家島校区学校地域協議会の協議結果を取りまとめた報告書案について協議。
11	R5. 11. 13 (月)	家島校区学校地域協議会協議結果報告書（案）について
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 報告書案の修正箇所について確認。 ➤ 住民への周知方法について協議。

(3) 家島校区学校地域協議会に関する住民説明会でのアンケート調査結果

1 アンケート調査の概要

住民説明会への参加者を対象に取組方策に関するアンケートを実施し、地域や保護者の意見を把握することにより、今後の協議の参考とするもの。

2 場所

家島小学校 2階 多目的室

※説明会終了後に、その場でアンケートへの協力を依頼。

3 対象者

説明会参加者（43名）及び協議会委員（14名）

4 配付方法

説明会資料に併せてアンケート用紙を配付し、説明会後に回収。

5 回答者数

45人

※説明会参加者で回答しなかった者、協議会委員で回答した者がいるため。

<注意>

各回答項目の割合（％）は、端数処理の関係上（小数点以下切り捨て）、合計が100％にならない場合がある。

◆基本属性

(1) 現在、未就学児、小学生、中学生のお子さんはいますか。

【回答者数=45】

(単位：人、%)

	回答数	割合
いる	14	31.1
いない	31	68.9
合計	45	100.0

(2) (1)でいると回答した場合、その内訳(複数選択可)

(単位：人)

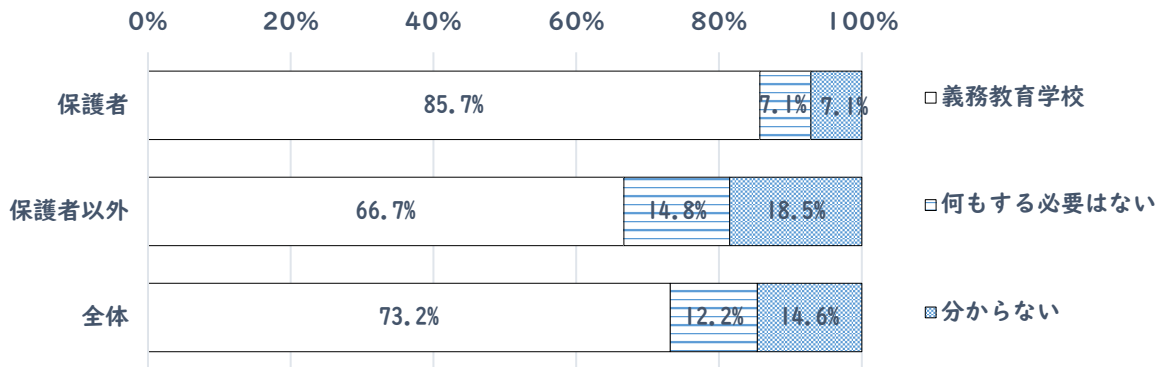
	人数
中学生	9
小学生	8
未就学児	2
合計	19

◆質問項目

問1 協議会では、児童生徒の教育環境をより良くするための取組方策として、「統合」「小規模特認校」「義務教育学校」について検討し、それぞれのメリット・デメリットについて協議を重ねた結果、義務教育学校とすることが良いと考えていますが、あなたはどのように考えますか。

※複数選択された回答は無効

【回答者数=41】



(単位：人)

項目	保護者	保護者以外	全体
家島小学校と家島中学校を小中一貫の義務教育学校とする方が良い	12	18	30
家島小学校または家島中学校を近隣の学校と統合する方が良い	0	0	0
家島小学校で小規模特認校制度を導入する方が良い	0	0	0
特に何もする必要はない	1	4	5
分からない	1	5	6
合計	14	27	41

問2 問1の回答を選んだ理由をご記入ください。(自由記述)

※左の数字は問1【良いと思う取組方策】の回答

1.義務教育学校 4.特に何もする必要はない 5.分からない 空欄は無回答など

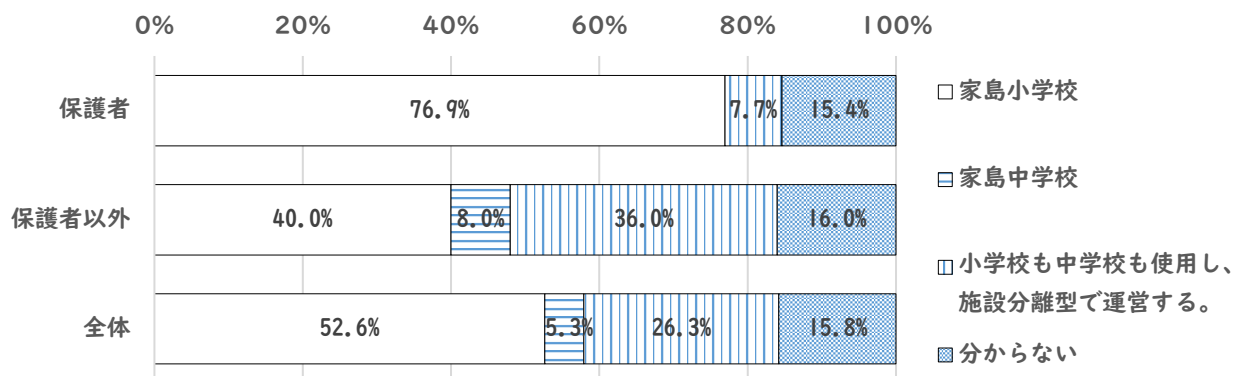
問1 の回答	意見
1	このまま何もしないのは違うと思います。その中で1番現実的なのが小中一貫だと思った。
1	少しでも多くの集団の中で学ぶ経験が必要であると考えているため。
1	確実に人数が減ってきているので、義務教育学校が良いと思う。(教え合ったり、助け合ったり)
1	当面義務教育学校の施設分離型が受け入れやすいのではないかと。
1	子どもたちの将来、様々な方と接していかなければならないと考えている。少人数の良さも残しつつ活気、選択肢の幅(クラブ、学習)を広げていきたい。
1	説明の中の例えであった、中学生の部活に小学生が参加できるかも、というのがすごく良いなと思いました。
1	総合的な判断。
1	子どものため。
1	子どものため。小学校低学年から中学生の通学の負担を減らして、学ぶ環境を守っていけるから。
1	メリットが多いから。
1	5年間での成果について考えた際、小規模特認校としてはリスクがあるから。
1	統合では、家島からの人口流出を促すことにつながる。小規模特認校にしても、他校区からの入学は地理的に困難で児童生徒増にはつながらないから。
1	船で通う現実よりもイメージしやすく、子どもたちの負担が少ない気がするから。
1	近隣の学校との統合では親の負担が大きいから。
1	消去法でこれしかないと思うし、子どもに少しでもメリットがあるのは小中一貫教育が充実することだと思うから。
1	消去法です。
1	現在の小・中学校の保護者の意見を尊重してあげれば良いと思う。
1	人数が減っても学校は残してほしいから。
1	どうか少ない人数、楽しい学校生活にしてほしい。
1	できれば「特に何もする必要がない」が良い。現在でも小中一貫校に近いと思われる。小学校6年生にも、上級生の誇りというものは必要と思われる。
4	少ない生徒数でのメリットが大きいから。
4	現状維持で子どもが楽しくしていたら良いのでは。
4	消極的でなく、積極的に何もする必要はない。児童数、生徒数が減るのは現状仕方がない。動くことのデメリットの方が多いと思う。
4	今、一日一日がいっぱいいっぱい、将来のことは考えられない。今まで島ならではの、と人を

	集めることをされている団体もあるが、その時で終わって、長続きしていない。無理して頑張ってもいつかは終わる。
5	現状が悪いとは思っていないので、実際の保護者や子どものアンケートを取ってもらわないと、回答を決めづらいつ感じました。
5	小中学校が1つの学校になったとして、生徒たちに何が良いのか分からない。
5	少人数でのメリット・デメリットがまだはっきり分からないため。
	家島に学校がなくなることは避けてもらいたい。
	できれば母校はこのままでいてほしい。
	統合するなら小中家島同士するのが良い。グラウンド等の関係もあるので、できれば今のままが良い。

問3 仮に義務教育学校を運営する場合、設置場所は小学校と中学校のどちらが良いと思いますか。

※複数選択された回答は無効

【回答者数=38】



(単位：人)

項目	保護者	保護者以外	全体
家島小学校	10	10	20
家島中学校	0	2	2
小学校も中学校も使用し、施設分離型で運営する。	1	9	10
分からない	2	4	6
合計	13	25	38

問4 問3の回答を選んだ理由をご記入ください。(自由記述)

※左の数字は問3【良いと思う義務教育学校の設置場所】の回答

1.家島小学校 2.家島中学校 3.施設分離型で運営 4.分からない 空欄は無回答など

問3 の回答	意見
1	立地が良いから。
1	通学の便が良いから。
1	立地的に便利だから。
1	地理的に良く、校舎がきれいだから。
1	校舎が新しいことと、立地。
1	校舎の立地、清潔さ。
1	島の真ん中にあり、観光客の方などの目にもつきやすく、地域の人たちの見守りもしやすい場所だと思うから。
1	1つの校舎でする方が、分離型よりは活気が出ると思います。
1	場所。1番中心にあり、人が常に通るから。
1	校舎が新しく、通学の便が良いから。
1	町の中心にあり、通いやすいから。
1	小中学校の児童生徒の通いやすさ、施設の規模を考えると小学校が良いと思う。
1	子どもの通学に利便性が良く、校舎が新しいから。中学生の部活については、中学校のグラウンドや体育館を利用すれば良い。
1	単純に小学生の通学距離を長くするのは厳しいかなと思いました。また、住民にとっては離れた中学校よりは、町の中心にある小学校の方が小学生・中学生の様子が見え、声が聞こえて良いかなと思います。
1	1つ選ぶならば小学校の場所が望ましいと思う。
1	1か所でした方が活気があり、縦割り班的な関わりができると思います。白鷺小中学校は良いと聞きます。
2	現在の家島小のグラウンドではクラブ活動が困難だから。
3	通学距離、運動場の広さ。
3	部活をするには中学校のグラウンドが必要であるし、小学校の校舎もまだまだ使えるから。
3	中学校では小学生の登下校が真浦地区から遠くなるが、中学生のクラブ活動で中学校のグラウンドが必要だから。
3	主にグラウンドの活用。中学校を選択した場合、距離的にデメリットがあるのでは。
3	小さな子どもが中学校まで通うのは遠いから。
3	一長一短があり、両方を使う方が良いと思う。
3	何でも使えるものは使ったら良いと思う。

3	行事や部活など、TPOに合わせて手厚い教育が受けられるように、整備、準備していた方がよい。
3	立地上、災害の際に寄れる場所として利用できる。
3	使用しない校舎の活用方法を考えてほしい。教育施設以外のことでも良いと思う。
4	メリット・デメリットを見ても、正直どちらとも即答できません。
4	今日はPTAの意見を聞いて、そちらの意見をできるだけ尊重するつもりで来ました。
	小学校は校舎が新しい。校庭は中学校を使えば良いのでは。
	現小学校の位置なら幼稚園も含め11年幼小中一貫教育ができる。ただ、今後、中学校のグラウンドや体育館等も活用できればと思う。

◆ご意見（自由記述）

No.	意見
1	残りたい人は残って生きている。今考えて動いたところで遅すぎだと思う。残っている人に負担が増え、それがまた嫌になり島から若い人を逃がしていると思う。
2	体育や部活動で家島B&G海洋センターを利用することはできないのか。
3	今回初めて参加しましたが、教育委員会の方、ありがとうございました。この問題はもっと地域の人が考えなければならぬと反省しました。もっと広げていけたらと思います。
4	家島が良いと思う方の移住が多くなるにはどうすれば良いのか。地域全体の受け入れ体制ができれば。
5	保護者は最悪、引っ越せば良いと思っている人も少なくはないと思う。もっとメリットを大きく、義務教育学校になることを魅力に思えるように考えてほしい。
6	姉妹校を作ってリモートで交流するとか、少ない人数でも世界で活躍できる人間づくりを姫路市から発信できるような教育制度をお願いしたいです。
7	保護者の意見も聞いてほしい。
8	教育委員会の皆様ありがとうございます。問1の(1)~(4)の4択で、保護者にもう1度問いかけてほしいです。その上で義務教育学校に賛成です。
9	もっと判断材料がほしいです。
10	将来について、とても大事な事柄なので慎重に検討していただきたい。
11	中学生は自転車通学をOKにして部活動がしやすいようにしたら良い。
12	先生の配置が手薄にならないか心配です。①副校長は小学校にも置きますか。②保健の先生は中学校と小学校で2人ですか。③中3の受検生は複式学級にはならず、手厚い教育が受けられますか。

(4) 家島小学校及び家島中学校に関するアンケート調査結果

※ 5/25、26 の住民説明会でアンケートを実施したが、保護者の参加が少なく十分な回答を得られなかったため、改めて保護者全員を対象としたアンケートを実施。

1 アンケート調査の概要

家島小学校及び家島中学校の児童生徒数が減少傾向にあることを踏まえ、家島校区学校地域協議会を設置し、児童生徒にとってより良い教育環境にしていくための取組方策について協議を重ねている。現在、当協議会としては、家島小学校と家島中学校を義務教育学校として1つの学校とすることが良いという意見にまとまっているが、今後さらに検討を進めていくため、関係保護者の意見を伺うもの。

2 調査期間

令和5年7月10日（月）から令和5年7月20日（木）まで

3 調査対象

- (1) 家島中学校の保護者
- (2) 家島小学校の保護者
- (3) 家島幼稚園の保護者
- (4) 真浦幼稚園の保護者
- (5) わくわく広場利用者

※学校等に兄弟姉妹のいる家庭は、長子についてのみ回答を依頼

4 調査方法

- (1) 児童生徒を通じ、説明・アンケートを配付し、各学校園で回収
- (2) わくわく広場いえしまに、説明・アンケートを設置し、施設利用者に回答を依頼

5 回答者数

回収場所	回答者数
家島中学校	29
家島小学校	14
家島幼稚園	2
真浦幼稚園	2
わくわく広場	3
合計	50

※ 回答については長子のみを対象

<注意>

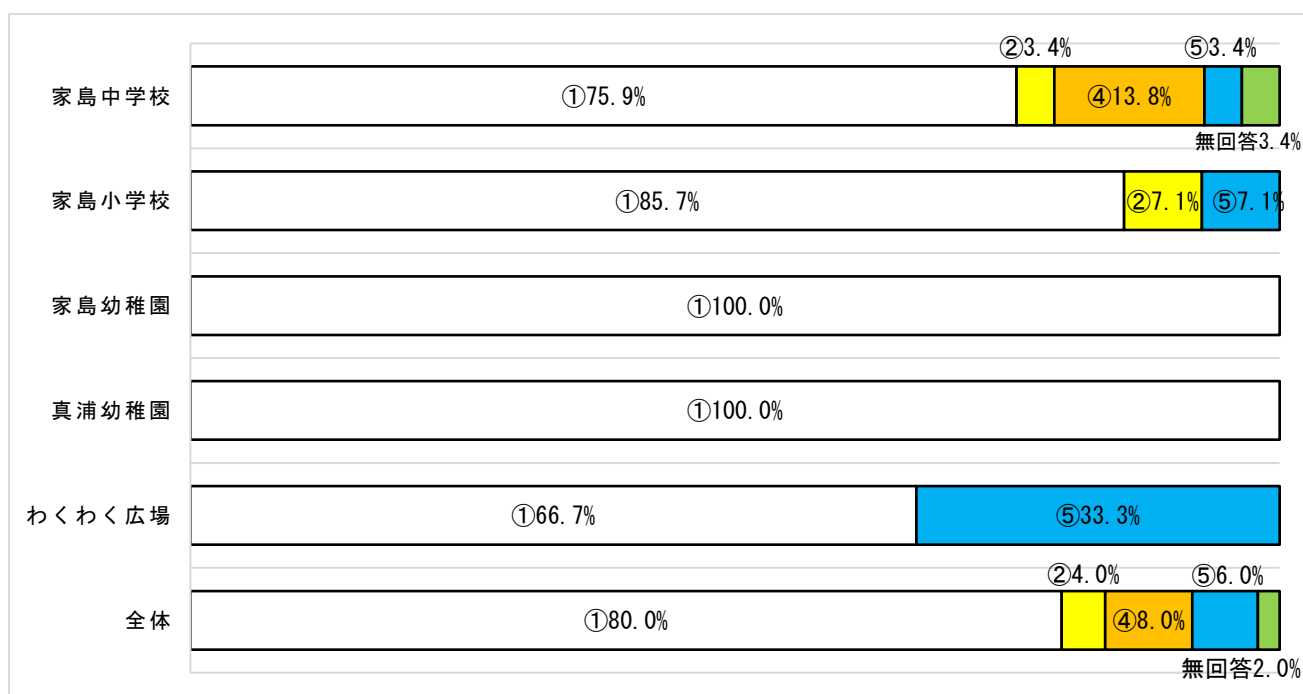
各回答項目の割合（％）は、端数処理の関係上（小数点以下切り捨て）、合計が100％にならない場合がある。

◆質問

問1 協議会では、児童生徒の教育環境をより良くするための取組方策として、「統合」「小規模特認校」「義務教育学校」について検討し、それぞれのメリット・デメリットについて協議を重ねた結果、義務教育学校とすることが良いと考えていますが、あなたはどのように考えますか。

項目	家島中 (29人)	家島小 (14人)	家島幼 (2人)	真浦幼 (2人)	わくわく (3人)	全体 (50人)
① 家島小学校と家島中学校を小中一貫の義務教育学校とする方が良い	22	12	2	2	2	40
② 家島小学校または家島中学校を近隣の学校と統合する方が良い	1	1	0	0	0	2
③ 家島小学校で小規模特認校制度を導入する方が良い	0	0	0	0	0	0
④ 特に何もする必要はない	4	0	0	0	0	4
⑤ 分からない	1	1	0	0	1	3

※家島中学校 無回答1人



問2 問1の回答を選んだ理由をご記入ください。(自由記述)

① 「家島小学校と家島中学校を小中一貫の義務教育学校とする方が良い」に回答 【回答者数=40人】

No.	意見
1	小さな子を毎日船で通わすことが心配ですし(統合の場合)、義務教育学校になることで、生徒も親も今までと特に変わらない通学、学校生活を送れるので。
2	あくまで家島の学校を守るために、島内で子どもたちを教育する場を失わないように動くべきだと思うから。10年以内に、中学校の生徒が10人以内になるのが目に見えているので、少しでも早いスタートを切ることが大切だと思う。
3	小・中学校とも人数がかなり少なく、船に乗って近隣の学校に通う、通わせるのは現実的に難しく、少ないなりに小中一貫の方が子どもたちにとって1番いい方法だと思います。
4	家島校区の推移をみれば、小中一貫が1番望ましいのではないかと思う。
5	近隣との統合になってしまったら、家島から子どもがいなくなってしまう。
6	学校存続の延命を考えるなら、これが1番いいと思ったから。
7	1つの校舎になると保護者の負担も減り、子どもの学校活動にも力が入る。
8	児童数の減少のため仕方がない。
9	通学するのが大変なため。
10	地理的に島内で登下校できる環境が良い。
11	・小学校に中学校を設置する方が新しいし、地震など時の耐久性も整備されているから。 ・他校と一緒にいるよりは、子どもたちの精神的な負担も少ないと思います。
12	(1)以外は現実的ではない。何も進化しない島ではもう限界。(1)は今の所、1番実現できることだと思う。
13	島外に毎日通う、島外から毎日来るのは無理がある!!
14	すでに子どもたちの生活環境が小中一貫の状況なので取り入れやすいと思う。
15	特に理由はなく、消去法で選んだ。
16	人数が少なくなっているから。
17	これから先、生徒数は減るいっぽうなので、子どもたちの教育環境を考えると、これが1番いい案なのかなと思います。
18	今まで何もしないということはどうかと思う。島全体のことを考えても、今、行動をおこすべき。
19	生徒の負担が少ないから。
20	1番現実的な提案だから。
21	坊勢や飾磨との統合は船での登下校が天気によって左右されることや、個人差はあるが波がなくても船酔いしやすい子もいると思われる。酔った状態で学習するのは厳しいのではないかと思う。なので島内で解決できる策として(1)が良いのではないかと思う。
22	・消去法(統合 デメリットが多すぎる、小規模 成果が出ない確率が高い、何もしない 子どもたちの学校生活に活気、豊かさがなくなる) ・義務教育=メンバーの変化が少なくさみしいが、メリットの方が大きい。
23	小学生が中学生がどのような教育を受けているのかが分かって希望が持てるのでは?

24	このまま何もしないでいいのなら今のままでいいのですが、どうにかしなければいけないと言われれば（1）かなと。
25	・島外からなかなか通って来る人がいないため。 ・逆に島外に通うには問題点が多々ある。
26	人数も少なくなっているから。
27	学校の活気が出る。

② 「家島小学校または家島中学校を近隣の学校と統合の方が良い」に回答 【回答者数=2人】

No.	意見
1	同学年同士の方が良い。

④ 「特に何もする必要はない」に回答 【回答者数=4人】

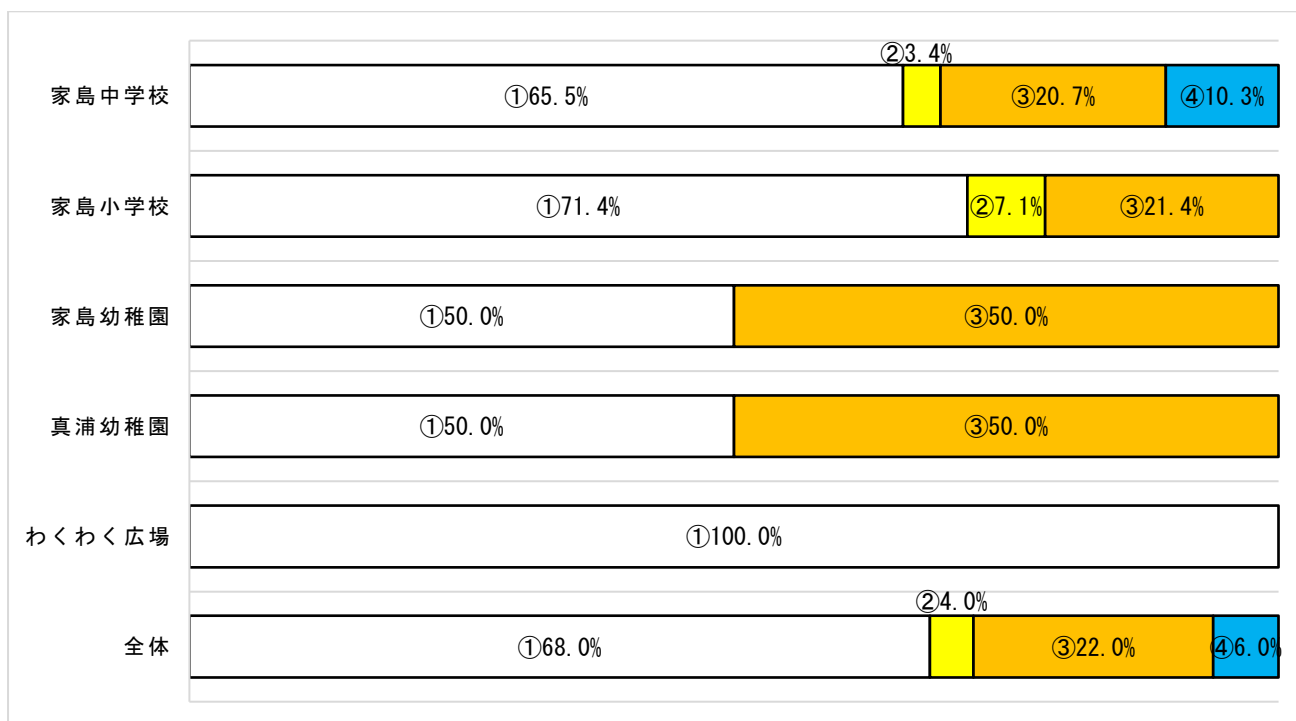
No.	意見
1	どれをするにももう遅いと思う。今さらと言う気持ちが大きい。今のままの方が平和に過ごせると思う。
2	できるところまでは現状のまま、小学校と中学校と別々に運営してもらいたい。

⑤ 「分からない」に回答 【回答者数=3人】

No.	意見
1	今後の人口減少に伴い統合の方が良い気もしますが、体育の授業などや部活など不便な所もあるかと思う。

問3 協議会では、義務教育学校にする場合、小学校と中学校を1つの校舎で運営する設置形態が良いという意見が多くなっています。仮に義務教育学校を運営する場合、設置場所は小学校と中学校のどちらが良いと思いますか。

項目	家島中 (29人)	家島小 (14人)	家島幼 (2人)	真浦幼 (2人)	わくわく (3人)	全体 (50人)
① 家島小学校	19	10	1	1	3	34
② 家島中学校	1	1	0	0	0	2
③ 小学校も中学校も使用し、 施設分離型で運営する	6	3	1	1	0	11
④ 分からない	3	0	0	0	0	3



問4 問3の回答を選んだ理由をご記入ください。(自由記述)

① 「家島小学校」に回答

【回答者数=34人】

No.	意見
1	島の中心にあり、景色も良いし新しい。観光客や住民の目にも止まりやすい。
2	校舎が広くて新しい。
3	新しい。
4	・立地 運動場を広く使いたい時やクラブ活動は中学校のグラウンドを利用できるように整備し、中学校跡地にプールを設置するなど、新しい施設を増やしてほしい。
5	中学校は真浦から通う小学生には遠すぎる。
6	建物が新しく教室も空いてる。しかし、グラウンドが狭いので、クラブ活動のことなどは考えなければいけない。
7	中学生は人数が少ないので小学校が良い。
8	通学が遠くて小学生には負担になる。
9	校舎がきれい、家島の中心部のため利便性が良い。
10	中学校は遠すぎるので、小学校の子どもたちが毎日登下校するのは不可能。毎日送迎する必要が必ず出てくるので、統合の必須条件といって良い。部活動などは、適宜対応すれば良い。
11	小学校の校舎の方が新しいから。
12	給食センターが小学校にあり、運送の手間、人件費、車輛などの経費削減につながる。部活動の問題などあるが、移動時間に20分必要であれば、部活終了時間を20分スライドするなど、いくらでもクリアできるのではないか。
13	校舎の新しさ。
14	・給食施設がある。・エレベータがある。・校舎が新しい。
15	家島小学校の方が新しいので耐久性も考えれば・・・。
16	・エレベータがある。・島の中心地域なのでどの家からも通学しやすい。
17	中学校までは小学生が歩くには遠すぎる。小学校の校舎が新しく、給食センターも近い。
18	立地が良い、新しい。
19	現状の施設分離でも良いと思うのですが、あえて統合するのならより立地が良い小学校の方が、住民の方の行事参加もしやすいと思う。
20	・新しい・エレベータの有無・給食センターが自校式。
21	家からまだ近いから。
22	校舎がきれい、小学生が通いやすい。
23	立地が良い・校舎が新しい。

② 「家島中学校」に回答

【回答者数=2人】

No.	意見
1	運動場やテニスコートがあつて部活動の移動時間が減るから。

③ 「小学校も中学校も使用し、施設分離型で運営する」に回答

【回答者数=11人】

No.	意見
1	給食センターなどがある小学校の方が良いとは思いますが、グラウンドや体育館は中学校の方が良いかもしれない。体力的に小学生が（特に低学年）中学校へ通うのは大変かと思われる。
2	中学生にしては運動場が狭いのではないかと思います。また、部活動は部によっては用具や設備がない。施設分離型が不可能であれば小学校の方が良いと思う。給食、建物が新しい。宮と真浦の中間位置等。
3	中学生が運動をするのであればもし小学校で1つの校舎で運営するので運動場が小さいと思う。
4	中学生の部活動だけ、中学校のグラウンドを使ったらいいと思います。
5	小学校の方が校舎も新しく良いが、部活動の際にグラウンドが狭いことがデメリットである。
6	小学校には給食施設があるので使用する。中学校には部活をするために運動場が広いので利用したい。
7	小学生の家の場所によっては、中学校だと遠いなど、立地的なことや、中学生は部活動もあるので、今まで通りの方がいいかなと思います。
8	どちらも使用することで廃校にならない。

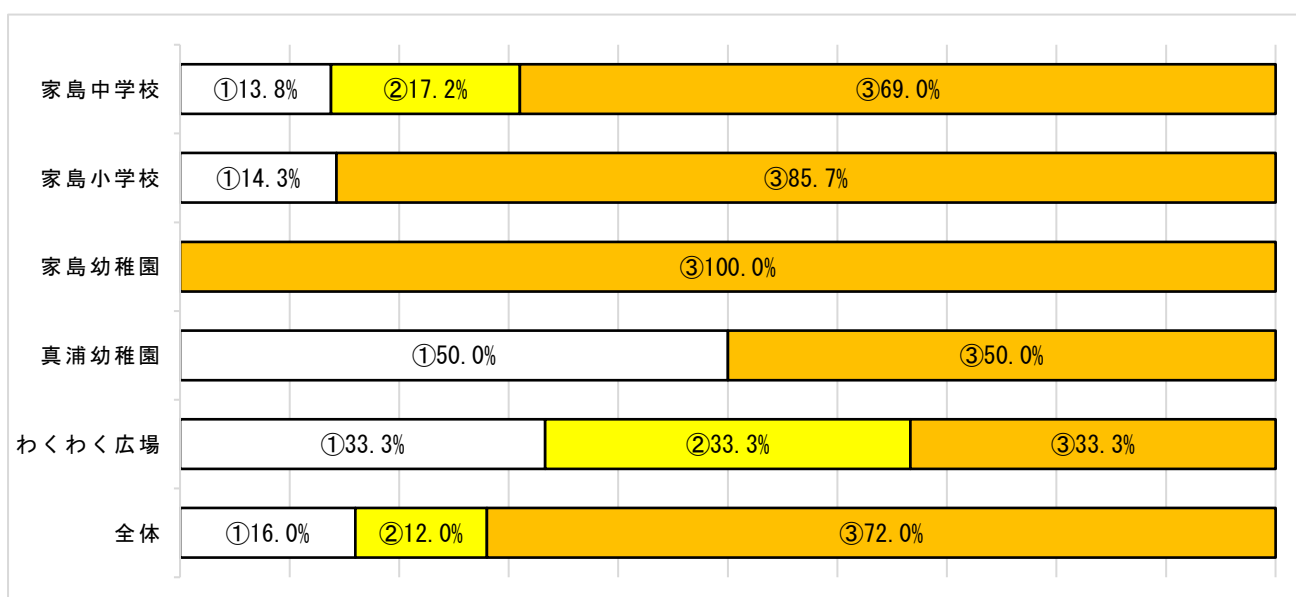
④ 「分からない」に回答

【回答者数=3人】

No.	意見
1	メリット・デメリットを考えるとすぐには答えを出せない。

問5 今後、家島校区学校地域協議会に関する説明会を開催する場合、参加しますか。

項目	家島中 (29人)	家島小 (14人)	家島幼 (2人)	真浦幼 (2人)	わくわく (3人)	全体 (50人)
① 参加する	4	2	0	1	1	8
② 参加しない	5	0	0	0	1	6
③ 分からない	20	12	2	1	1	36



◆ご意見（自由記述欄）

No.	意見
1	家島で子育てがしたいと思えるような教育環境を整えてほしいです。
2	子どもたちのために色々と考えていただいております。先日の説明会に参加した際、参加者の方からの厳しい意見もありましたが、委員の方々の子どもたちを想う気持ちに感動しました。とても大変なことだと思いますが、子どもたちの豊かな学校生活のため、引きつづきよろしくお願ひいたします。
3	問5について、仕事の都合が合えば参加したい。
4	校舎を小学校で運営する場合、中学校の部活はどこでするのか、運動場をどちらにするのかという問題もある。
5	この問題はもっと早くに行動するべきだったと思う。1学年に1クラスしかない。という時を迎えた時に考えて動くべきだったのではないのでしょうか。子どもが3人幼稚園から1クラスという生活をしてきました。高校になって200人以上の学年の中でも対応することができているので、今さら小中をどうにか……。とは思いません。
6	これ以上子どもたちがへつていかないよう島内の学校として島にしかない島でしかできない魅力ある学校にしていきたい。
7	小中一貫にも反対の声があるようですが、家島の子どもたちが、他校と合併するより、小中一貫の方が子どもたちが変わらぬ環境でこれまで通り生活し、学校に通学することが可能なのでベストではないのでしょうか。より良い方向に子どもファースト思考でこの件が進むことを願ひます。
8	今、何の行事をするにも合同になっています。そんなことを考えると1つになる方が誰もが良い方向だと思います。
9	資料P4の小学生も中学校教員による指導を受けることが可能になる。とメリットに書かれていますが、必ずしも中学校教員が良いとは思えません。少人数なので、個々に合った課題や子どもの気持ちを考えられる教師を家島に来てもらえるようお願いいたします。
10	・小学校低学年から中学3年生まで体格差もあるので、保健の先生や、保健室登校も安心できるように願ひます。
11	数年前からこのような議論がされているが、実施されるのが遅い。
12	理想論を言っておられる人がたくさんいるようです。陸つづきなら小規模特認校もわかるが、協議会の人たちの子どもが家島に来るように孫を来させるとかわざわざさせますか。本当に理想ばかり言っている。自分の家族を家島に帰ってこらせたらどうですか？人口増えるのでは？
13	説明会を開催しても保護者の数より地域の方のほうが人数が多いように思う。コレは保護者にとってあまり関心がないのではないかと思う。皆いざとなれば引越し、転校すれば良いと思っているのだと思います。
14	家島小学校、中学校がつぶれるとしたら、何年後くらいか気になります。